

失語症会話パートナー養成の 現状と課題

神奈川県横浜市から

平成20年6月7日

全国失語症者の集い三重(四日市)大会

横浜失語症会話パートナーを養成する会

副会長 松元瑞枝

(勤務先:横浜旭中央総合病院 言語室)

横浜失語症会話パートナーを養成する会

横浜市周辺のSTが結成

平成13年 6名 → 現在 28名

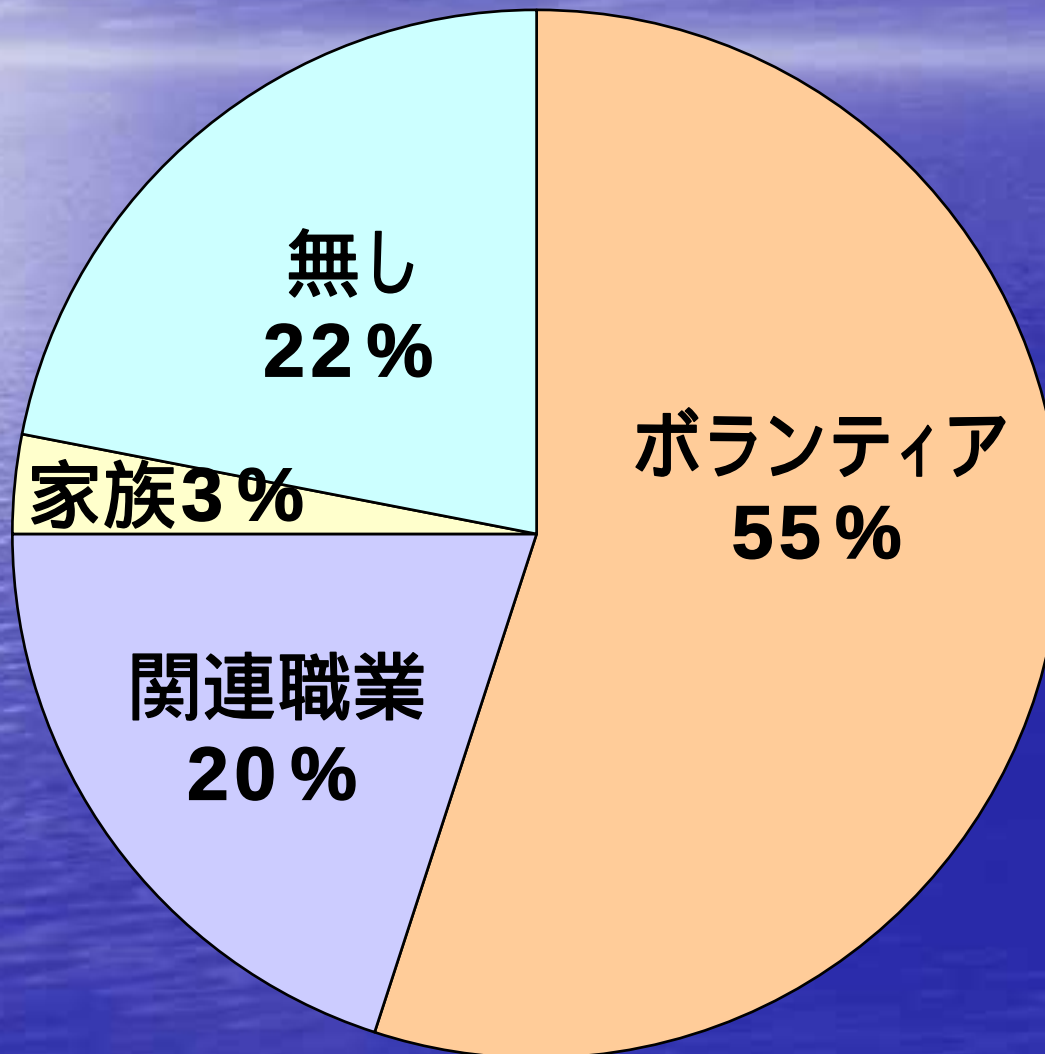
平成14～18年

失語症会話パートナー養成講座開催

(NPO法人「和音」に準じた内容)

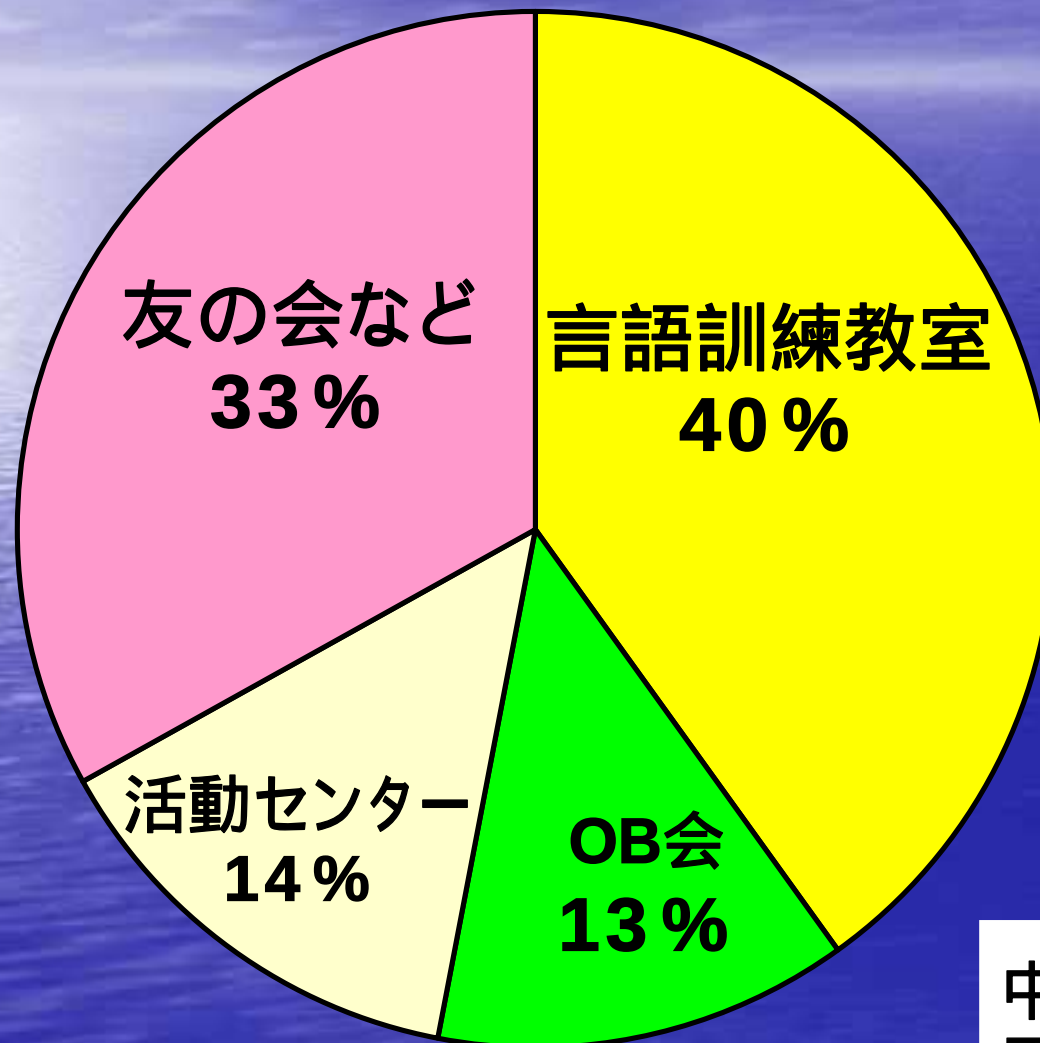
講座修了者 165人

講座修了者の活動状況



H.19.9月
アンケート結果より
回収率64%

ボランティアの活動先



言語訓練教室：行政が開催
昭和62年～市内3ヶ所
平成9年～市内全18区

中途障害者地域活動センター
平成7～15年 全18区に設置

横浜失語症会話パートナーを養成する会

平成13年3月 発足

6月 会議 実習場所:言語訓練教室

→ 7月 健康福祉局へ支援依頼文書送付

8月 健康福祉局訪問 課長、係長らと面談

平成14～16年 **横浜市補助金**を受ける

平成17～19年度 **横浜市協働事業モデル事業**

*** 始動時から行政と折衝**

< 背景 > * 横浜市は全区で言語訓練教室を開催

* 言語訓練教室でボランティアが活動

* 当会のSTの多くが言語訓練教室を担当

平成17～19年度 横浜市との協働事業モデル事業

横浜市

トップメニュー 検索

協働事業提案制度モデル事業

【平成17年度実施事業一覧】

番号	事業名	提案団体名	分野
1	失語症等の成人中途・言語障害者へのコミュニケーション支援	横浜失語症会話パートナーを養成する会	

モデル事業

失語症者の コミュニケーション 支援事業

横浜失語症会話パートナーを養成する会
福祉局高齢在宅支援課
(現健康福祉局高齢在宅支援課)

リポーター 三田 桂子
加藤美奈子
竹口 千晴

事業の概要

事業目的

info

横浜市との協働事業モデル事業

- 会話パートナー養成講座
- 関連職向け講習会
- 市民への啓発:

失語症リーフレット作成
ホームページ作成

横浜失語症会話パートナーを養成する会

より豊かなコミュニケーションのために



<http://shitsugosho.web.fc2.com/>

失語症

より豊かなコミュニケーションのために



協働事業モデル事業提案の流れ

前年度6月頃 関係担当部署と調整

↓ 一次審査(書類選考)

8月下旬頃

↓ 二次審査(公開プレゼンテーション)

9月下旬頃 関係担当部署と調整等

↓ 二次審査会(最終選考)

11月下旬頃 結果発表

2月上旬 協働事業協定書を締結

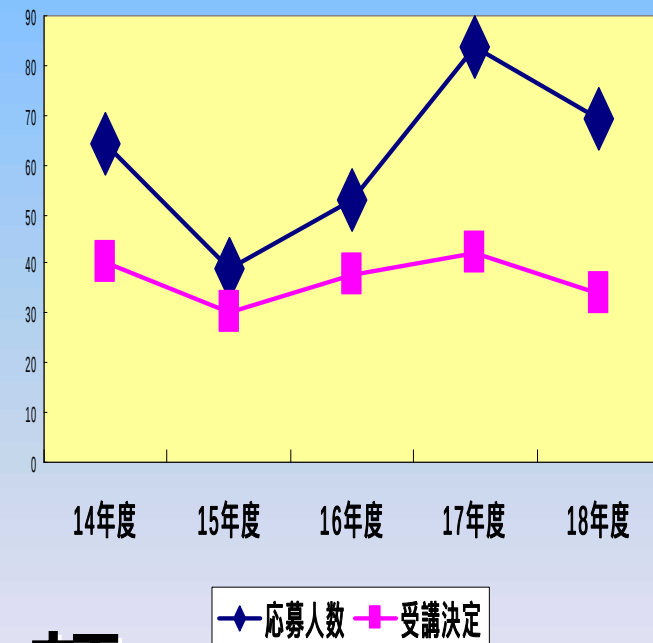
↓

● 4月～事業実施

協働して良かった点

- 受講者を広く公募できた
 - 応募者数の増大
 - 実習先を確保できた
 - 広く市民への呼びかけ
 - 修了者の会「港」の誕生
-
- 保健師向け講習を毎年依頼

応募者数と受講決定者数



悪かった点

- 受講者：横浜市民に限定
- 行政の制度変化の影響が大
- 言語訓練教室の廃止 平成19年
平成20年からは、活動センターが開催

< 背景 >

介護保険の浸透

老人保健法廃止の影響

平成20年度から

言語訓練教室の運営主体

区役所 → 中途障害者地域活動センター

- 人手不足の中でのスタート
- 現状では大幅縮小

*** 協働の成果？：廃止は阻止できた**

今後の課題

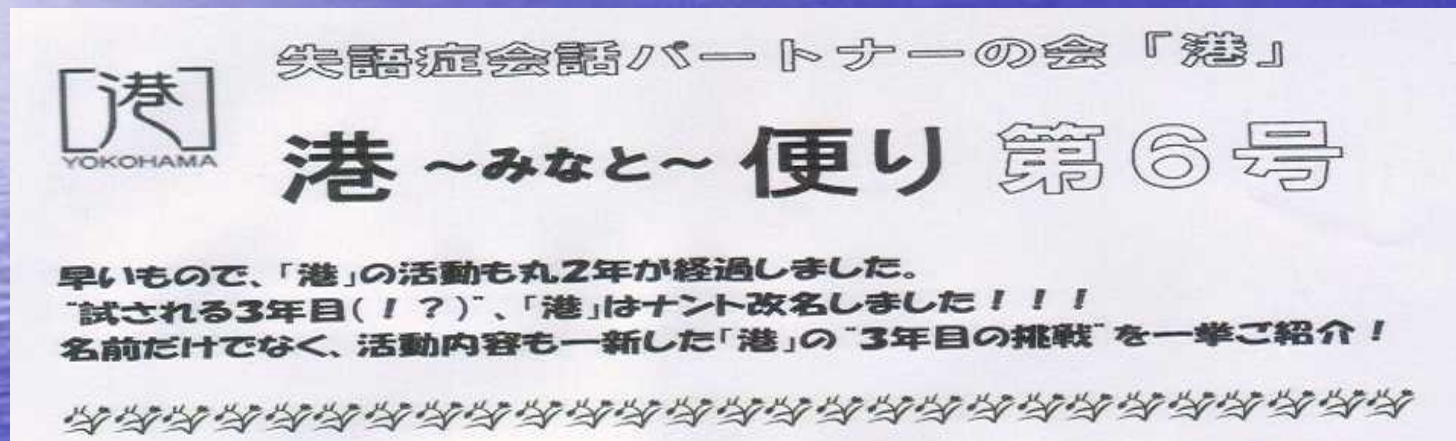
- 養成講座の継続
実習先の確保
修了後活動先の確保
言語聴覚士の勤務の激化
- 関連職向け講習会の必要性
- 「港」の活動のバックアップ
当事者の気持ち：聞く機会を作る

「港(失語症会話パートナーの会)」

平成18年4月設立

会報の発行(年2回)

勉強会・親睦会の開催



ボランティアさんの活動継続理由(野村ら'06)

話を通じあえた時に嬉しい 83%

明るくなられる様子がわかる 73%

「港」の活動報告
会話パートナーの立場から
「港」副代表 柴原あゆみ

自主グループで会話パートナーとして
訪問会話パートナーの試み
事務局活動